

平成31年1定 予算特別委員会（部審査） 開催状況

開催年月日 平成31年2月28日

質問者 民主・道民連合 広田 まゆみ 委員

担当部課 総合政策部政策局計画推進課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 SDGsについて</p> <p>(一) SDGs未来都市による到達目標について</p> <p>SDGsについてまず伺います。未来都市認定なのですけれども、道としては、SDGs未来都市として、具体的に何を到達目標とし、どんな戦略、手法で、それを達成する考えか伺います。</p> <p>【再質問】</p> <p>今、「世界の中で輝きつづける北海道」を目指して、指標を設定されたということですが、今回、新たに設定された、または強化された指標はあるのか伺います。</p>	<p>【計画推進課長】</p> <p>SDGsの取組についてであります。さきに策定した北海道SDGs推進ビジョンでは、めざす姿を「世界の中で輝きつづける北海道」とし、SDGsのゴールやターゲット、本道の現状・課題や価値・強みを踏まえながら、SDGs推進に向けた柱として、優先的に取り組む5つの課題を掲げ、各主体が取組を進めていくための具体的な19の対応方向を示すとともに、取組の目標や成果を確認するための指標を設定しているところでございます。</p> <p>道といたしましては、このビジョンを広く周知するとともに、毎年度、取組状況や指標の達成状況を把握し、北海道SDGs推進ネットワークなどを通じ、多くの方々とSDGs推進に向けた取組を共有しながら、道はもとより、それぞれの主体において、ビジョンで掲げた優先課題や対応方向に沿った取組が展開されるよう努めてまいります。</p> <p>【計画推進担当局長】</p> <p>ビジョンについてであります。ビジョンでは、SDGs推進に向けた取組の柱として、安全・安心を実感できる社会の形成や環境・エネルギーの先進地の実現など、優先的に取り組む5つの課題を掲げ、取組を進めていくための具体的な対応方向を示すとともに、取組の目標や成果が道民の皆様に分かりやすいものとなるよう、指標を設定したところでございます。</p> <p>この指標につきましては、SDGsのゴールやターゲット、国連が定めた指標などを踏まえるとともに、経済社会や道民の暮らしの状況を示し、全国との比較が可能で、毎年又は隔年で公表されるものを基本として、ビジョンに掲げる優先課題の対応方向ごとに、道の各種計画を活用しながら検討を行い、設定したところでございまして、必要に応じて見直しを行っていくこととしております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(二) SDGs 推進のあり方について</p> <p>1 総合政策部の役割について</p> <p>新しく設定された指標はないということだと思うのですが、けれども、ビジョンを拝見すると、今お話したように、取組例とか指標例が示されたに過ぎません。総花的ではなく、重点の指標をいくつか、総合政策部が定めて、その達成に向けて各部がどのように相互作用でその1つの具体的な課題を解決していくのか、その過程を道民の皆さんに可視化できるようにするようなプロセスの設計が必要だというふうに思います。</p> <p>各部における検討状況をどのように把握し、どのような課題があると認識しているのか伺います。</p> <p>さらに、今後の重点政策づくりや予算編成に関し、SDGsというものをどのように活用し、総合政策部でなくてはできない役割を果たす考えか伺います。</p> <p>【再質問】</p> <p>SDGs推進本部の下、「全庁的な企画・調整機能を発揮し」というような御答弁だったのですが、そもそも、今までと同じ手法でなんとかなる、限界があるかもしれないという認識がそもそも無いのが問題ではないかというふうに思っています。計画のための計画、ビジョンづくりになっていないのかどうか、そういう問題意識が無いのか伺います。</p> <p>2 協働のあり方について</p> <p>連携・協働のあり方ということをお話しされました。限界があるからこそ、協働というのが必要だというふうに思うのですが、道は、北海道SDGs推進ネットワークを8月に設立し、今後、情報の発信・共有、意見交換などを行っていくと聞いています。一方、このSDGsのビジョンの推進管理、評価などは、知事の附属機関である政策評価委員会において行おうとしています。既に道に先行して地域でSDGsやESD(持続可能な開発教育)などの実践を進めてきたNPOや、志ある企業などの皆さんが、このSDGsで道庁の皆さんに期待しているのは、「御意見を聞きます」という姿勢ではなく、「一緒に考え、行動する」という、そういう道の姿勢とその具体的な場とプロセスの確保であります。道は連携・協働と言いますが、まず、協働とはどのようなものと理解しているのか伺います。</p> <p>その上で、今後、具体的な指標の設定や進行管理に関して、既存の枠組みではなく、北海道SDGs推進ネットワークの協議体の下で、しっかり民間の人も検証に参加できる仕組みを作るべきと考えますが見解を伺います。</p>	<p>【計画推進担当局長】</p> <p>総合政策部の役割などについてであります。道では、SDGsの推進に向け、振興局を含め全庁を挙げた取組を進めるため、昨年4月に、「SDGs推進本部」を設置し、これまで、各種計画へのSDGsの要素の反映や関連施策の実施、各種事業等の中での情報発信に取り組むとともに、ネットワーク組織を通じた普及啓発や連携・協働関係の構築を進めるほか、SDGs推進の基本的な指針となるビジョンを策定したところでございます。</p> <p>ビジョンの策定に当たりましては、各部と連携・調整し、SDGsの17のゴールや169のターゲットと、それぞれが所管する施策を照らし合わせながら、本道の現状や課題、価値と強み、それらを踏まえた優先課題と対応方向を取りまとめるとともに、成果指標を設定したところでございます。</p> <p>道といたしましては、今後とも、SDGs推進本部の下、総合政策部が全庁的な企画・調整機能を発揮し、ビジョンを基に、SDGsの要素を効果的に取り入れながら、重点政策をはじめ関連施策の着実な推進に努めてまいります。</p> <p>【計画推進担当局長】</p> <p>全庁的な取組についてであります。道としましては、知事をトップとする推進本部の下、各部局間の連携を図りながら、本道におけるSDGs推進の基本的な指針となるビジョンに沿って、SDGsの要素の各種計画への反映や、関連する施策を着実に実施するとともに、様々な手法や機会を活用しまして、多様な主体の方々とビジョンを広く共有し、効果的な情報発信や連携・協働関係の構築を一層進めていくなど、ビジョンの実効性の確保に努めながら、全庁を挙げましてSDGsの推進に積極的に取り組んでまいります。</p> <p>【計画推進課長】</p> <p>ビジョンの推進管理などについてであります。SDGsの推進に当たりましては、地域課題などの解決に向けて、多様な主体がめざす姿と取組方向を共有し、相互の理解と信頼の下、それぞれの役割に応じて、緊密なパートナーシップを構築し、創意と工夫による取組を進めていくといった、「連携・協働」が重要であると考えているところでございます。</p> <p>このため、道といたしましては、ビジョンを広く周知するとともに、毎年度、政策評価などを通じ、ビジョンの推進状況を把握し、SDGs推進ネットワークや各地域での様々な主体との意見交換の場を通じ、具体的な取組や課題等を共有し、情報発信や連携・協働した取組につなげていくなど、ビジョンの実行性の確保に努めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>時間がないので、協働について議論しませんけれども、基本的に元々、協働の推進方針というのは、道庁の不正経理の後に道庁がしっかり構造改革しなければいけない、そのために民間の人との協働、開かれた関係が必要だということからスタートしたその緊張感が、今、本当に高橋道政の中で無くなってきていると私は思っています。</p> <p>3 振興局など地域単位の取組について 次に、振興局などの地域単位の取組について伺います。</p> <p>繰り返しになりますけれども、基本的には私は総合政策部として、具体的な重点をしっかりと絞って欲しい、その達成のために、地域ごとの指標設定を、私は道段階から今から全部見直せなんていうことは申しませんが、地域ごとの指標設定をまさにゼロから官民協働で行うべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>全道各地のSDGs推進の動きの特徴的なものを道としてどのように把握し、今後どのように推進していくかも併せて伺います。</p> <p>【指摘】 地域単位の取組の時にもですね、強く指摘をさせていただきますが、できれば指標設定から、そしてその継承の枠組み、そして周知徹底も、下働きに使うのではなくて、民間などの組織をですね、企画段階からしっかり参画させるようにしていただくように、そのことを強く指摘をさせていただきます。</p> <p>(三) 重点課題の設定について 1 北海道総合開発委員会での審議内容について 次に重点課題の設定について、伺いたいと思うのですが、北海道総合開発委員会では、SDGsビジョン策定にあたって、総合開発委員会でも議論されたそうですが、その議論内容を伺います。</p> <p>また、計画部会では、人づくり、人材確保が中心に議論されたと聞いていますが、どのような理由でこのテーマを設定をされて、どのような議論があったのか伺います。</p> <p>この総合開発委員会が出された、人づくりが必要といった御意見などについて、私も共感するところです。</p>	<p>〔計画推進担当局長〕 地域におけるSDGsの推進についてであります、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に取り組むSDGsは、それぞれの地域の実情に即して、市町村はじめ企業・団体、NPOなど多様な主体が連携し、積極的な取組を進めていくことが重要でありまして、このため、道では、まずは策定したビジョンを広報紙やSNSなど各種媒体を活用し、道内の各層・各地域に広く周知していくこととしていくところでございます。</p> <p>また、こうした普及啓発に合わせまして、地域の特性や実情に応じたSDGsの推進が図られるよう、振興局と連携して各地域で様々な主体に参加いただく意見交換会を開催し、それぞれの取組状況や課題の把握を行うほか、セミナーなどを通じ、連携・協働による取組のマッチング支援を行うなど、道内各地域にSDGsを広く浸透させながら、幅広い分野や地域で活発な取組が展開されるよう努めてまいります。</p> <p>〔計画推進課長〕 北海道総合開発委員会での議論についてであります、今年度の委員会では、総合計画の推進に関し、SDGsのゴールを切り口に議論することとし、委員の皆様からは、「食や観光との結び付き」や「医療、環境、食の融合」、さらには、「人口減少が進む中、様々な分野でSDGsの取組や人づくり・人材確保が必要」といった御意見などをいただいたところでございます。</p> <p>また、計画部会では、委員会の中で、SDGsの推進に当たり、道政の各分野に共通して重要とされた「人づくり・人材確保」を中心的なテーマとして、更に具体的な審議をいただき、例えば、「成年年齢の引下げやIT化などに対応した、若年世代への総合的な消費者教育」、「外国人観光客誘致のための人材育成」、さらには、「社会全体でいじめ対策に取り組むための体制整備」が必要といった御意見などをいただいたところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>2 新たな価値の創造について</p> <p>次に、新たな価値の創造についてという観点から、御質問させていただきたいというふうに思います。</p> <p>人口減少・危機突破と掲げてスタートした高橋道政ですが、私は当初から少しその議論の方向に違和感がありました。人口減少そのものを問題とするよりも、それによって起こる課題にどう対応するのかが重要であります。加えて、札幌などの人口の集中する都市が豊かで、地方や僻地が劣るというような、従来の価値観を転換していくことも持続可能な開発については、私は重要なポイントであるというふうに思います。</p> <p>総合政策部はこの間、成熟社会についての検討や、集落対策についての議論をされてきたと思いますが、このSDGs推進に際し、この人口減少、危機突破というところの新たな価値観の提示というところに対して、それは何も反映されないのでしょうか。例えば同じ未来都市に認定された下川町は、これまでの社会資本というものさしから自然資本という概念で、産官学の協働で今、まちづくりを進めようとしています。</p> <p>新たなものさし、方向性を総合政策部が示した上で、SDGsといういわば道具を使って、地域づくりを進めるべきと考えますが見解を伺います。</p> <p>【指摘】</p> <p>時間がないので次の質問に行きますが、SDGsをどうするかではなくて、SDGsで何を北海道の未来に作っていくのかということが大事だということを指摘しておきます。</p>	<p>〔総合政策部長〕</p> <p>SDGsの推進についてであります。優れた自然環境や豊富な農林水産資源など、本道が有する価値や強みを様々な取組に活かし、SDGsの推進に積極的に取り組むことは、人口減少などの地域の諸課題の解決に貢献し、将来にわたって安心して住み続けることができる地域社会の形成につながるものと考えております。</p> <p>道ではこれまで、持続可能で活力ある地域社会づくりに向けて、成熟社会の実現の方向性や集落対策のあり方の検討、創生総合戦略の策定などを進めてきたところでありまして、SDGs推進ビジョンは、それらの考え方も生かして策定したものでございます。</p> <p>道といたしましては、このビジョンをSDGsの取組を促進する基本的な指針として位置付け、これに沿って関連する施策を着実に実施いたしますとともに、多様な主体の方々々と広く共有し、取組の裾野の拡大に努めながら、「世界の中で輝きつづける北海道」の実現に向けて積極的に取り組んでまいりたいと考えてございます。</p>